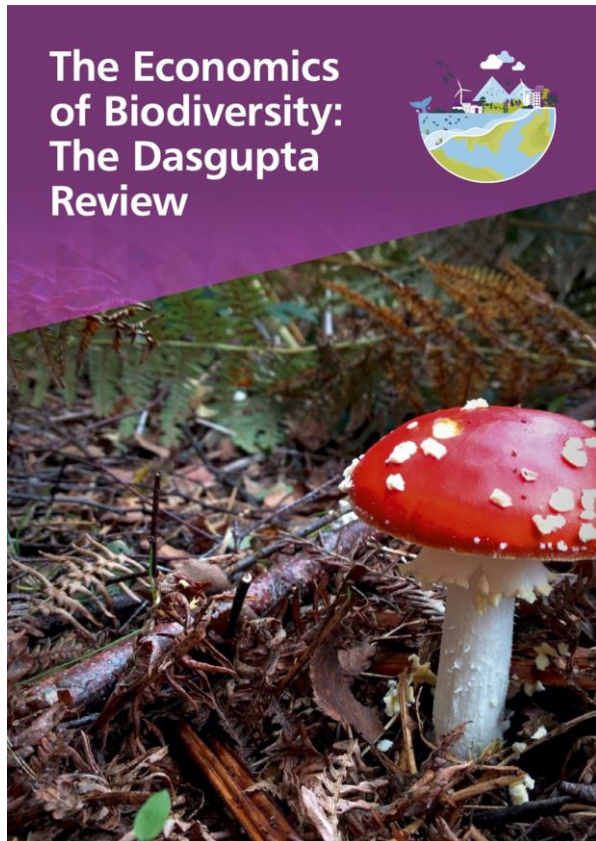

Chapter 6.6

— 高橋 橋本 山田 —

輪読について



担当者：3年生（3人前後の少人数制グループ）

先生から頂いた論文（英語）の内容を報告し、内容について議論し、また補足やアドバイスを頂ける活動です。

担当範囲を割り振り、内容をスライドにまとめ、ゼミで発表

←今年度の論文

【英】 The Dasgupta Review [同義] 生物多様性の経済学

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

- 規範に基づく取引と、契約に基づく取引の対比
 - ・ 契約に基づく取引＝互いに面識のない人々の間でも成立する
 - ←現代の世界では人々が移動可能であることが関係している

例 1 : デパートで買い物をする際に、店員が自分を知らないこと

例 2 : 銀行から資金を借り入れる際に、その資金の出所を知らないこと

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

現代社会↓

毎日何十億もの取引が、互いに顔を合わせることもなく、おそらくは一生顔を合わせることもない人々の間で行われている

これらの取引は一度限り ⇔ 長期的な関係に基づく取引

市場は、こういった取引の機会を提供する制度の最たるもの。

＝コミュニティとは異なり、市場は非個人的で包括的。

よく使われるフレーズの一つ：「私のお金には、あなたのお金と同じだけの価値がある」

(参考) 6.5 社会の一貫性の基盤となる社会関係資本

◎コミュニティ

一人ひとりが、地域の生態系を共有する人々を知っている。

コミュニティは個人的で排他的

メンバーには名前があり、個性があり、属性がある。

部外者の言葉は部内者の言葉に劣る。(信頼が欠ける)

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

しかし、市場は共同体なしには機能しない。

これまで見てきたように、

相互に強制力を持つこと＝外部からの強制（たとえば国家による強制）が効力を発揮するための基盤

であるため

相互の信頼⇒お互いについての自己確認的な信念体系に基づく。

⇒お互いに対する信頼は、基本的には壊れやすい精神状態である、という可能性が考えられる

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

⇒社会も生態系と同様に、信頼を守り、促進するためにある程度のモジュール性を持っている必要がある。

モジュール性(モジュラリティ、Modularity)



社会のあるセクターで信頼が崩壊した場合、他のセクターに感染するのではなく、他のセクターの行動によって再生される可能性を高める

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

協力の機会を台無しにするものは、相互の疑念だけに他ならない。

しかし、この疑念には自己の内面と一貫性がある。

したがって、人々が協力できるようにするための適切な制度が整っていても、実際には協力しない場合もあるといえる。

⇒ 協力するかどうかは、相互の信用にのみ依存している。

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

社会にモジュール性があり、人々が協力による利益に興味を持っている場合でも、協力しない可能性がある

これを再確認するために、各当事者が「他のすべての当事者が合意を反故にする」と信じている場合を仮定。

その場合、各自がすぐに反故にすることが得策となる。これはつまり、協力が存在しないことを意味する。



人々が先を見通している場合でも、他の人々が合意を反故にするだろうという確信は、協力の失敗の原因となり得る。

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

地域社会がいかにして協力関係から非協力関係に陥るかを示す例

ex1) 人口増加や長引く干ばつによる生態系へのストレス

⇒土地や自然資源をめぐる争いを引き起こす

ex2) 政治的な不安定さ

⇒社会を形成していた人々が互いに敵対し、過去の関係を利用して他者に対抗する集団を形成する理由となりうる。内戦はその極端な例



ある集団は、自分たちの生活の糧が他の集団によって破壊されたり、奪われたりすることを懸念し、他者との協力がもたらす将来の利益をより減少させる。

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

同様に、

政府が自らの権威の強化のために、コミュニタリアニズムの制度を破壊することに熱心になっている、という懸念が当事者に存在していると、彼らは(関係の維持によって得られる)将来の利益をより高い割合で割り引くことになる。

⇒将来の利益を過小評価することによって長期的な関係は崩壊してしまう。

コミュニタリアニズム(共同体主義)：相互信頼に基づく社会の維持を重視
関係が崩壊へ転じる点は分岐点(転換点)であり、社会規範は人々が信頼に基づいて調整を行うことで維持される。

6.6 社会関係資本とアイデンティティ

同様に、

政府が自らの権威の強化のために、コミュニタリアニズムの制度を破壊することに熱心になっている、という懸念が当事者に存在していると、彼らは(関係の維持によって得られる)将来の利益をより高い割合で割り引くことになる。

⇒将来の利益を過小評価することによって長期的な関係は崩壊してしまう。

Table 6.1 Options – The Grim Norm

		Person 2	
		C ₂ (cooperate)	D ₂ (defect)
Person 1	C ₁ (cooperate)	(50,000, 50,000)	(10,000, 130,000)
	D ₁ (defect)	(130,000, 10,000)	(30,000, 30,000)

6.6 社会関係資本と同一性

そして、社会にはたとえ人々が先見の明を持っていたとしても、相互信頼状態から相互不信状態に傾く可能性のある経路が存在している。

つまり、

単なる信念の変化によって、社会が協力から非協用にひっくり返る可能性がある。

⇒そしてそのような信用の転換点は、状況の大きな変化とはなんの関係もなく、突如として起こる人々の心理的变化によって唐突に引き起こされる可能性がある。

大抵の場合は、

⇒誤った嘘やプロパガンダが人々の信念を大きく変化させ社会を相互不信状態へと変化させている。

6.6 社会関係資本と同一性

当然逆に、人々の心理状態の変化によって、
「相互不信状態の社会 ⇨ 相互信頼状態の社会」と変化する可能性もあるが、かなり時間がかかる

例えば、
以前は内戦で疲弊していたコミュニティを再建するには、信頼を築いていく必要がある。協力するためには人々はお互いを信頼するだけでなく誰もが理解できる社会規範に基づいて調整するよう努めなければならない。
⇒つまり手間がかかる

⇒社会を構築するよりも破壊する方がはるかに簡単(そうなりやすい)

6.6 社会関係資本と同一性

では、協力の増減はマクロ経済統計にはどのように反映されるのか？

⇒ 「Box 6.2」の数値例は協力の増加により資源の効率的な配分が可能になり、富が増加するという重要な点を捉えている

ここで、ある1点以外は相違のない2つのコミュニティを仮定する

1. 人々が互いに信頼するという一連の相互信念に基づいて調整しているコミュニティ
2. 人々が互いに信頼しないという一連の相互信念に基づいて調整しているコミュニティ

6.6 社会関係資本と同一性

ここで、ある1点以外は相違のない2つのコミュニティを仮定する

1. 人々が互いに信頼するという一連の相互信念に基づいて調整しているコミュニティ
2. 人々が互いに信頼しないという一連の相互信念に基づいて調整しているコミュニティ

すると、信頼の違いは経済の生産性の数値に反映され、人々がお互いを信頼しているコミュニティの方が、信頼していないコミュニティよりも生産性の数値が高くなると想定される

信頼する経済の個人はより多くの収入を享受

⇒資本財を蓄積するためにより多くの収入を貯蓄し結果として資産蓄積はより高くなる

(相互信頼が経済成長の原動力として統計から解釈されることの証拠は第8章)

6.6 社会関係資本と同一性

生物多様性の経済学によると、
豊かになった社会において、私たちは生産資本と人的資本の蓄積の中で、活動における相互信頼を調整することができた。

しかし、
同時に遠く離れた土地において自然資本を犠牲にしてきた。(第4章、第14章、第15章)

⇒これは多くの経済に同様に言えることであり、経済成長の代償として自分自身の自然資本を破壊してきた

⇒信頼だけでは生物圏を破壊から救うことはできない

⇒信頼がどのように果たされるべきかという議論が極めて重要

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

Putnam(1993)曰く...

“社会関係資本とは協調的な行動を促進することによって、社会の効率性を向上させる、信頼、規範、ネットワークのような社会組織の特徴をもつもの、

と定義された。(しかしこれは初期における定義)

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

Putnamはコミュニティについてではなく、市民社会について議論している。

→両者には微妙な違いがある

コミュニティ：法律が使用できないため社会的行動規範が展開されている場

市民社会：理想的には法律による支援のもと社会的ネットワークが国家を補完する形で市民活動に携われる場

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

この根底にある論文の内容として、

とりわけ誰が信頼に値するかどうかを学べるようにするやり方で、ネットワーク活動はメンバーの間で信頼を生み出すのに役立つ。

↓

結果、人々は市民活動に参加しやすくなる。

というものがある。

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

<Putnamによるイタリアでの実験>

イタリアの20州それぞれの合唱団とサッカークラブの会員に関する同時期に存在するデータを明らかにした。

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

このようなネットワークで生まれる信頼を“社会関係資本”と呼び、そのネットワークが、公共サービスの供給者としての役割において州政府を律するだけでなく、時間的な範囲もあることを明らかにした。

数百年前に他の地域に比べ市民参画が盛んだった地域は、現在も市民参画のレベルが高く、より良い統治を享受している。

Putnamは、市民社会を社会関係資本の場と位置づけている。

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

彼の発見によると...

市民参画が構成員の幸福に直接貢献する

ことに加え..

その幸福はある種の資産（社会関係資本）の蓄積が別の資産（州政府）の質を向上させるという道具的な価値もある。

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

水平的な構造を持つ社会関係資本：構成員は自発的 (ex. 北欧の合唱団社会)



垂直的な構造を持つ社会関係資本：構成員は世襲的 (ex. ヒンドゥー教のジャジマーニー制度)

※ジャジマーニー制度では社会の様々な制度にわたって義務が課せられている

Box6.5 社会の一貫性としての社会関係資本

Putnamの社会関係資本を道具的な観点からのみ読むのは間違い。

道具的価値と本質的価値を分ける境界線は、その道具が私たちが深く抱いている価値を前進させるものである場合には、非常に薄いものとなる。

本質的価値とされるものは、より深く抱かれた価値を高めるための道具である。

逆に、深く抱かれた価値を高めるものが道具的な利点を持つこともある。

6.6 社会関係資本と同一性

誕生や結婚を祝い、家族の誰かが亡くなったときには悲しみを分かち合いたいという人間の欲求は、社会間の文化的な違いを超えて深く根付いているように見える。



私たちは家族に物質的な財やサービスを提供する必要性があるが、より広いコミュニティに所属し、参加する必要性もある。

拡大した必要性の起源が、私たちの個人的な利益にまでさかのぼることができることは、あまり重要ではない。

→その起源は私たちの遠い、進化の過去にあるから。

6.6 社会関係資本と同一性

アジアやアフリカの低所得世帯を例にとる。

食料に対する需要の所得弾力性：0.7から0.8以下

家計所得における所得弾力性の増加のうち20から30%は非食品（お祝い、お祭り、葬式、アルコールによるネットワークづくり）に費やされる

このことは開発経済学者にとって謎で、また、非常に貧しい人々、栄養失調の人々でさえ当てはまるように思われる。

6.6 社会関係資本と同一性

人々の示す要求が物質的な要求を超越していること



私たちの幸福が自分自身との関わりだけでなく、他者との関わりにも依存していることを明らかにしているに過ぎない

6.6 社会関係資本と同一性

社会史家のDavid Hollinger(2006)は、「連帯」とみなすことができる誰かのアイデンティティの特徴を明らかにした。

他の人々とアイデンティティを共有すること = 彼らとの連帯を感じることに

私たちは彼らに特別な借りがあり、その他の人々には頼れないという点で彼らを頼りにしていると信じている。

6.6 社会関係資本と同一性

Hollingerは、フェミニズムは連帯だが、女らしさは連帯ではないと述べた。

SunsteinとUllmann-Margalit（2001）は、

人々が自分たちの連帯グループが行っているある活動（抗議デモ行進への参加、衣服の選択、特定の食習慣の採用など）に関心がないにも関わらず、連帯を表明するために参加する場合がある

ということを指摘した。

→人々が連帯を表現するために用いる財を「連帯財」と名付けた。

6.6 社会関係資本と同一性

人類学者のMary Douglasは、貧しいということは、隣人を家に招きお茶を飲めないということだ、と述べた。

社会関係資本は、私たち一人ひとりに対して本質的価値を持つ。



だからこそ私たちが参加するネットワークにおけるルールではなく、コミュニティの規範という観点から協力と互惠性について議論した。